

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503528		
法人名	合資会社オープンハート		
事業所名	グループホーム美優平岸		
所在地	062-0932 札幌市豊平区平岸2条5丁目1-11第二柳田ビル1階		
自己評価作成日	平成22年9月8日	評価結果市町村受理日	平成22年10月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503528&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目 北海道社会福祉総合センター(かでる2・7)4F
訪問調査日	平成22年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設5年目を迎えており、理念である「日々の「暮らしの中でその人らしくいつまでも尊厳のある心豊かで安らかな生活を目指します。」をモットーにし、利用者一人1人の個性を大切にしたり暮らしを行なっている。利用者が率先して食卓の準備をしたり、和やかに食事を囲む雰囲気を大事にしたりさらに地域の人々との交流も積極的に行い、イベント参加や外出などにも力を入れています。職員教育を重視し独自の研修プログラムを開発し、スキルアップに繋げている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

公園や商店に隣接し、地下鉄が徒歩圏内という利便性の高い環境に立地している。地域に根差した運営が展開されており、運営推進会議に3名の地域代表の参加を得て地域、町内会との協力関係が充実し、災害対策での連携や各種地域活動、事業所内行事での相互交流が定着している。その人らしい暮らしが営めるよう自立支援に取り組み、毎月のカンファレンスにより利用者の現状把握を深め、一人ひとりを支えつつ意欲と力量を引き出し、特に毎食の食事作りは準備から調理、後片付けまで利用者と職員が一緒に行い、和やかに食事を囲んでいる。普段の散歩や買物などで近隣住民とのつき合いが自然な形で保たれ、多彩なレクリエーションや外出行事、年に1度一泊温泉旅行を実施し、利用者と職員が共に過ごし活動する事で喜怒哀楽を分かち合い豊かなライフスタイルの提供と、認知症の症状の緩和や身体機能低下・予防に繋げている。また本人の希望を止め多面からの検討を重ね、一人での買物をサポートするなど個別ケアに取り組んでいる。代表者、管理者、職員の良好なチームワークの下、利用者本位のサービスの質向上に努力を重ねており、生活感、季節感を採り入れた家庭的な雰囲気の中で、家族的な団欒が覗える事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場合やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	解説当初の理念に加えて地域との交流を重視した地域密着型サービスとしての理念を事業所独自で創り上げ日々のサービス提供の中で実践している。職員採用時研修には理念を伝える為のロールプレイなどをとりいれ職員全員が参加し組織の一員としての自覚とプロ意識を育成すると共に職員が常に理念を共有できるよう教育を徹底している。	利用者の尊厳と地域との交流を重視した独自の理念を事業所の基本とし、日々の取組みの中で実践している。職員採用時研修等を活用し、職員、新職員が理念の共有を深め、意思統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の活動(花植え・ゴミ拾い・日が入り温泉旅行等)に参加している。又地域のサークル活動メンバーの訪問を受けるなど積極的に地域の人々と交流している。	近隣とのおすそ分けを始め、各種町内会活動への積極的参加や事業所行事へのお誘い、地域音楽サークルとのふれ合いなど、利用者が地域住民と関わりながら暮らし続けるための相互交流が定着している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には、町内会役員に参加してもらい施設を案内をしたりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には町内会役員3名利用者・家族・包括支援センター職員等が参加している。活動報告に留まらず行事参加やインフルエンザに関する研修など時期や状況に対応する活動内容を協議しながら実践している。	会議では、活動状況やサービス評価等の報告を行い、防災をテーマに消防署職員を招き、意見や質疑応答等が交わされている。3名の町内会役員がメンバーとして参加協力があり、会議を通して密な地域交流の促進に反映されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区の担当者とは入居に関する連携や運営に関する指導・助言を得ている。又会議などの機会を利用し事業所の実情を伝えるなどの情報交換や対応絵の協力を得ている。	管理者は今年度の区の連絡協議会の代表を担い、行政担当者や同業者との情報交換や課題解決に向けた協議により、質の向上への連携が図られている。区の担当者の事業所訪問の際には、情報提供や相談を通して協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束のないケアを実践している。	身体拘束に関する具体的禁止対象行為を理解し、言葉掛けや対応に留意している。夜間のみ玄関は施錠し、利用者の安全に配慮しつつ自由な生活を支えるケアを実践している。更に「高齢者虐待と身体拘束」の外部研修を受講した職員の報告を兼ねて全職員での確認を予定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努	虐待が見過ごされる事の内容要注意を払い防止に努めている。		

グループホーム美優平岸

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見に関する制度の理解を深める為に運営推進会議にて豊平第一地域包括支援センターの職員に説明(勉強会)して頂き必要時支援しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に十分な説明を行い理解・納得を測れている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居室など利用者が落ち着いて離れる場所において離しやすい雰囲気を作っている。面会や運営推進会議等で意見を頂話の内容等を運営に反映させている。	契約書等に苦情処理体制と手順を定め、運営推進会議には、利用者、家族が参加し、意見表出の機会を設けている。家族の面会や電話連絡時に利用者の状況を報告しながら話しやすい雰囲気に努めている。	家族の訪問は多く、対話を重視している。サービスの質の確保、向上に家族の意見や要望などは貴重であるので、更に事業所の現状や取組みを報告しながら家族の意見などの表出を促し、職員間で共有、検討し、運営に反映させていくことを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員専用のノートに記入したり月1回のミーティングなどで話し合いを行い反映させている。	代表者と管理者は、月1回のミーティングや日常業務で職員とコミュニケーションを図り、新人職員には問い掛けや関わりを多くする等、職員の意見を聞く機会を積極的に設け、業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と密に連絡を取り合ったり職員との会話を設けたりし資格の為に援助や給与等において反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加やホーム内での研修及び日々のケアの中で指導を行い職員のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は中々研修等に行く機会がなく月に一度のカンファレンスしか行っていないが今後機会があったら研修会に行くように努めて行きたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	積極的にコミュニケーションを図りお話を伺い受け止めるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問時等、お話をさせて頂き不安等をお聞きし受け止めるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援・他のサービス利用を含め話し合いし見極め対応を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や裁縫等の知恵を頂日々の生活を共に支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・電話等で日々の出来事をお話し家族と共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所等の関係が途切れないよう維持し努めている。	利用者の希望に合わせて、行きつけの美容院を利用したり、顔馴染みの商店に買物へ出掛けており、今までの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事作り・片付け・掃除・ティータイム・レクリエーション等の声掛けし利用者さん同士の係わり合い等出来るよう動めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とする利用者がいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話の中で希望や意向等把握し、努め困難な場合本人本位に検討を行なっている。	職員は暮らしの中で、利用者との対話の時間を意識的に持ち、思いや希望の把握に努めると共に、家族からも情報を得て、その人らしい暮らしが継続できるよう本人本位に検討し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め	家族・利用者に入居時話し合いを伺い生活環境等把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活において現状を把握し心身状態の変化等ある場合記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員との話し合いの中で意見やアイディアを出し合い介護計画を作成している。	日々の状況は個人記録に詳細に記載し、毎月カンファレンスでモニタリングを行い、全職員で検討し、介護支援専門員と担当職員が中心となって介護計画を作成している。	特に状態が安定している利用者のアセスメントは半年から1年の取組みになっており、事業所としても考慮しているので、期間短縮に取り組み、利用者の現状やケアの実際に即した計画作成に反映する事を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や送りノートに記入し情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や散歩等様々な支援を行い又多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・ボランティア等と協力し本人の意向や必要性に応じ支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診・訪問診療を本人・家族の希望に添って行なっている。	利用者の希望や状況に応じ、協力医療機関による月1～2回の往診診療や通院の支援をしている。受診状況の共有や看護職員による日常健康管理、協力医療機関との良好な連携関係も構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と相談し連携を図りながら個々の利用者の日常の健康管理や医療活用を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換を蜜に行い早期退院が出来るよう努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携指針を作成し終末期のあり方に着いて早い段階からご家族に説明させて頂いている。	医療連携体制指針を基に、重度化や看取りに関しての対応方針を説明し、同意を得ている。看取りに至るケースは経験していないが、状態変化時に対応し、医療関係者と相談しながら支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災センターにて救急対応等の講習会に参加している。全職員が応急手当を出来るよう訓練をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員の災害訓練の参加や指導を行い地域の人々の協力体制が得られる働きがけをしている途中です。	年2回消防署立会いで避難訓練を実施し、今年度は地域住民の参加を得て夜間想定訓練を行っている。また全職員が災害に備えて札幌市防災センターに出向き、体験的研修を受けている。	事業所では23年にスプリンクラーの設置が計画されている。今後も様々な災害発生場面を想定し、シミュレーションを行ったり備蓄品の検討や準備など、機会ある毎に事業所内や運営推進会議の場で防災について協議し、更なる安全への取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者様の言葉掛けや話し方のスピードや強弱つけながら対応させて頂いております。	理念に「尊厳の尊重」を掲げ、自己決定しやすい言葉掛けや本人の気持ちに配慮したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のお話を傾聴し希望される場合は買物。散歩に出かけ必要な物はご自分で選んで頂く様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごされる際にはご本人のペースに合わせて不必要な訪室はさげ様子を伺いながら声掛けを行なう。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みを大切に髪型・服装・化粧などのおしゃれの支援をさせて頂いております。		

グループホーム美優平岸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に話をしながら調理や食事、後片付けを行って頂いている。個々の力を活かしながら支援させ頂いている。	利用者と職員は、食事の準備や調理、後片付けなどを一緒にやり、和やかに食卓を囲んでいる。外食や好みの献立、旬の食材を味わうなど変化も取り入れた食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるカロリー計算や献立、個々の体調に合わせ普通食、お粥、キザミ食とバランスが考慮されている。水分補給も1日を通して摂取出来る様支援されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをし	毎食後口腔洗浄が出来る様に声掛け見守りにて行って頂いております。又介助が必要な場合は支援させて頂いております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人1人の排尿感覚を把握し声掛けにて、スムーズにトイレ誘導を行なっている。	個々の排泄パターンに応じたさりげない誘導を行い、トイレでの排泄を大切に支援している。身体状況に応じた衛生用品を使用し、失敗の場合も羞恥心などの心情を察し、手早く周囲に分らぬよう対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因、及ぼす影響と理解し毎日の排便確認や水分補給や運動の働きかけを毎日行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせていつでも入浴する事が出来る。体調不良で入浴の出来ない場合でも日を改め入浴できるように支援している。週3～4回は入浴できるよう支援する。	夕食後の入浴希望は無く、本人の希望に添って週3、4回、個別の入浴剤を用意しゆったりと寛いだ入浴になるよう支援している。入居当初の入浴拒否も声掛けや連携の工夫で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人1人その時々状況に応じた対応により安心して気持ちよく眠れるよう支援する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の薬の支援は職員が状態を把握し管理させて頂き声掛け・見守りにてきちんと服用できるよう確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人1人が好きな事(手芸・畑・ぬり絵)など得意な事を思い出せるように支援させて頂いている。		

グループホーム美優平岸

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	欲しい物があれば体調などを見ながら職員と一緒に買い物に出かけるようにしている。	外出が生活の一部として取り入れられ、散歩や買物に出掛け、外気に触れ地域の方との語らいを楽しんでいる。車椅子や法人車両を活用し、利用者の状態や移動の配慮をしながら多彩な外出行事を企画し、積極的に外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来ない方は職員がお預かりしているが、管理できる方は小額自己管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はホームの電話を使用して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間をいつも清潔にし不快になる音や光を出さないように注意し月ごとに季節に合わせた装飾をしている。	1日の大半の時間を過ごす居間には、季節毎の装飾や行事、外出の際の写真が飾られ、利用者全員が座れるソファや食卓の配置の工夫があり、皆で楽しく過ごせる環境作りに努めている。大きい窓は開放感をもたらし、清潔に保たれた家庭的な寛ぎの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員で過ごせるリビングソファとダイニングテーブルで個々になれる場所がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のお好きな物を持ち込んで安心して過ごしていただく。	家具や生活用品、大切にしているものが持ち込まれ、配置や装飾は本人や家族と相談しながら支援している。出来る方とは一緒に掃除をして清潔に配慮し、居心地の良い落ち着いた居室作りに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに目印をつけたり居室に表札をつけて、混乱や失敗を防ぐようにしている。		